

成立し難い純粋な恋愛

文人の
武蔵野

村上春樹の長編小説「スプートニクの恋人」(1999年)には、いかに純粋な恋愛が成立し難いかが描かれています。複数の物語が並行して語られますが、武蔵野が始まり武蔵野で終わる物語でもあります。

作中の前半で一度だけ表記

村上春樹 ⑬



村上春樹の長編小説「スプートニクの恋人」(武蔵野市で)

される「武蔵野」は、井の頭公園を中心とする「平原の竜巻」を目撃できない場所として示されています。

井の頭公園は、吉祥寺に住む「すみれ」のお気に入りの場所です。国立に住む「ぼく」は、すみれと共に井の頭公園を訪れ、小説や小説を書く行為について、性欲や中国の都市についてなど、様々なことを話します。若いふたりは武蔵野の地で多くの時間を共有しますが、ぼくからすみれに寄せる想いは一方通行でした。

すみれは、結婚式場で出会った女性「ミュウ」と「平原の竜巻のような」激しい恋に落ちます。すみれにとっては初めてのことでした。ミュウはすみれを自身の秘書にします。すみれは代々木上原に引っ越し、神宮前にあるミュウの仕事場に通うようになります。ふたりは極めて良好な関係を結びますが、すみれからミュウへの心身を懸けた一途な想いは双方方向にはなり得ませんでした。

ぼくとミュウのふたりは、すみれの失踪を機に、ギリシヤの島で対面します。島で突如行方不明になったすみれを捜索し、ぼくは「あちら側」の存在を実感します。すみれは発見されませんが、すみれが書いた二つの文書が発見されます。「こちら側」におけるすみれの不在を表象する二つの文書は、終わりのない推理や読解に巻き込みます。因果関係は不明ですが、立川におけるある事件をきっかけにしてぼくは抱えていた不適切な関係を清算し、すみれが武蔵野に帰還したことが示唆されて物語は幕を閉じます。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

*

過去の連載は、読売新聞オンラインで読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。



トフォンはQRコードから。